

令和 5 年度

ヤクルトたんぽぽ保育園 自己評価結果

ヤクルトたんぽぽ保育園では保育の質の向上を図るために自己評価を実施しています。

自己評価を通して、自分たちの保育の良さや課題に気づき、次の保育計画へ活かしていくことで、より良い保育を提供し、保護者や地域の皆さまとの信頼関係がより良く、より深まるよう努めていきます。

【評価のねらい】

保育所保育指針に示された保育を、当園の保育理念・目標・方針に沿った保育でどのように取り組んでいるのかを考え、保育の改善に活かす。

【評価項目】

保育理念に沿った内容が「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」の視点で評価する。

【評価の判定】

◎=できている

○=ある程度できているが、充実・改善等を要する点がある

△=ほとんどできていない、もしくはできていない

保育理念 1	生きる力を育てる	評価	○
保育目標	子どもたちの無限の可能性を少しでも伸ばすために様々な経験を通して、「生きる力」を育みます。		
保育方針	集団生活の中で基本的な生活習慣を身につけ、友達とのかかわりの中で社会性を身につけるお手伝いをします。		
自己評価	<p>【健康な心と体】 天気の良い日は散歩や公園遊びなどを積極的に行うなど体力向上、健康づくりができています。</p> <p>【自立心】 食事、衣服の着脱を自分でするなど年齢にあった支援をしている。また生活面だけでなく、友達とのかかわりや遊びに対して考えようとする力を導くような声掛けや見守りができている。</p> <p>【協同性】 友達とのかかわりの中で、距離感や接し方を保育士が仲立ちとなり一緒に遊ぶ楽しさを感じられるよう関わった。</p> <p>【社会生活との関わり】 友達とのかかわりだけでなく、園外保育（お散歩など）で出会う地域の方々への挨拶でかかわりを持てるよう配慮している。</p> <p>【改善点】 職員の、子どもに対する共通理解と配慮の一貫性を、さらに深める。</p>		

保育理念 2	思いやりの心を育てる	評価	◎
保育目標	人と関わることを尊び「思いやりの心」を育みます。		
保育方針	人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感、人権を大切に する心を育てます。		
自己評価	<p>【協同性】</p> <p>友だちとの関わりを仲立ちし、言葉や気持ちを代弁するときに自分の気持ちを大切にしながら相手の気持ちを思いやるような言葉がけをしている。</p> <p>【道徳性・規範意識の芽生え】</p> <p>友だちとの遊びや様々な経験の中で、順番や決まりを守ったり、相手の気持ちに寄り添ったり、自分の気持ちを整理できるようになっている。</p> <p>【社会生活との関わり】</p> <p>地域の方との交流は少ないが、散歩時に声をかけてくださる方に挨拶を返したり、頭を下げたりする保育士の姿を真似するようになっている。また保育の中で物の扱い方を知らせながら楽しく遊べる環境を整えている。</p> <p>【思考力の芽生え】</p> <p>子どもの『気づき』に保育士が気づき、言葉を添えたり共感し、子ども自身で考えたり行動できるようにしている。</p>		

保育理念 3	想像力を育てる	評価	○
保育目標	異年齢保育の特色を生かし「想像力」を育みます。		
保育方針	様々な体験を通して豊かな感性を育て創造性の芽生えを培う保育を目指します。		
自己評価	<p>【自然との関わり・生命尊重】 散歩で自然に触れ、季節の変化や動植物に心を動かされ、身近な事象への関心を高めることができた。花や虫などを見つけ触れることができる時は、安全を確認しながら実際に触れるようにした。</p> <p>【数量や図形・標識や文字などの関心・感覚】 数字の歌を歌ったり、絵本を読んでいる時に数を数えたり、丸・三角・四角などの図形を見たり、様々な場面で子どもたちが興味を持ってきた時に楽しく伝えていた。</p> <p>【言葉による伝え合い】 ごっこ遊びが盛んになり、子ども同士で遊んでいる時や、一人で集中して遊んでいる時は、遊びが中断しないように見守る姿勢をとっている。</p> <p>【豊かな感性と表現】 遊びの幅が広がるよう子どもの声を聞きながら手作りおもちゃを作り、環境構成を整えた。七夕、ハロウィン、クリスマス、節分、ひな祭りなどそれぞれ思い思いの製作を楽しみ、友だちの作品にも興味をもたせた。</p> <p>【改善点】 植物栽培などを取り入れ、育てる喜びや命あるものを大切にする機会を与えるようにする。</p>		

保育理念 4	健康であることを大切にする気持ちを育てる	評価	○
保育目標	生活習慣の自立を目指し「健康であることを大切にする気持ち」を育みます。		
保育方針	ヤクルトが考える「予防医学」に基づき、子どもたちみんなが健康で楽しい生活が送れるためのお手伝いをします。		
自己評価	<p>【健康な心と体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外遊び後、給食前の手洗いや、適切な着替えなど、清潔を保つ保育ができた。 ・暑い日も寒い日も戸外へ出て、汗をかくことや寒さを感じることも意識して保育を行った。また水分補給をすることや体を休める午睡の大切さについてもわかりやすい声掛けで過ごすようにした。 ・毎日の食事や、おやつのヤクルト製品を通して、健康な体づくりができた。 <p>【改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜が苦手な子が多いので、野菜を食べることの大切さが伝わる絵本や、植物栽培を通した食育活動を考えていきたい。 ・今年度は、リズム遊びが少なかったなので、楽しく体を動かしていくような活動をもっと取り入れていくようにしたい。 		

保育理念 5	大切にされる経験から自己肯定感を育てる	評価	○
保育目標	ありのままの子どもを認め、自分に自信があり何事にも挑戦していく強い心「折れない心」を育みます。		
保育方針	安全な環境の中で、子どもたちが満足して生活できる保育を目指します。		
自己評価	<p>【社会生活との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもがチャレンジしていく姿を見守りながら、失敗した時も否定することなく肯定的に受け止めた。 ・全職員がプラスの声掛けをすることで自己肯定感を育てていった。 ・園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要なきまりがあるころを理解できるようになってきた。 ・「大切にされる」という面では、十分な愛情で接し満足できる環境であると思う。 ・「何事にも挑戦」という面では、2歳児はもっと体を動かした方がよかったが、安全面を重視するのであれば今の環境がベストなのかと思う。 <p>【改善点】</p> <p>安全を重視しすぎて慎重になりすぎることもあるが、安全が確保できる環境を整え、もっと何事にも挑戦できるような機会を増やしたい。</p>		

6	保育の専門家として家族支援を行う	評価	◎
保育方針	保育の専門家として家族支援を行い、子育て支援に取り組みます。		
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と定期的な面談を行ってきた。 ・園と家庭での子どもの姿を共有し、寄り添った支援を心掛けた。 ・子どもの変わった様子を見逃さないよう日頃から保護者とのコミュニケーションを密にとるよう心掛けた。 ・送迎時の保護者とのコミュニケーションを通して、個々にあった関わり方をしてきた。 ・信頼関係を築いたうえで不安なことや悩みを聞いて、気持ちに寄り添い一緒に解決に向かうようにした。 ・送迎時の保護者対応は常勤職員で行なっているが、パート職員も挨拶できる時は笑顔で声掛け、安心感を持ってもらうようにした。 ・保護者対応で悩んだ時も、日々の職員ミーティングで共有し職員全員で話し合いができています。 		